

令和5年度 八幡浜市総合教育会議議事録

1 日時

令和5年11月29日（水） 9：57～11：15

2 場所

八幡浜市役所八幡浜庁舎3階庁議室

3 出席者

(1) 構成員

大城一郎市長、井上靖教育長、泉俊也教育委員、山下貴満教育委員、
成瀬いづみ教育委員、佐々木広光教育委員

(2) 構成員以外の出席者

副市長、総務企画部長、総務課長、総務課長補佐、教育指導主幹、学校教育課長、
生涯学習課長、学校教育課長補佐

4 市長あいさつ

本会議は、私と教育委員会での情報交換、連携強化の場として、定期的に開催しているもの。

昨年度の会議では、「教育大綱の改定について」と「小中学校の統廃合について」を議題として、学校等の環境整備の充実に向けた様々な意見交換を行った。本日の会議では、次第にあるとおり「学校再編整備第二次実施計画の進捗状況について」等、3つの議題を設けている。

スムーズな進行により有意義な会としたいと思っているので、よろしく願いたい。

5 議事

(1) 学校再編整備第二次実施計画の進捗状況について

【事務局】説明

小学校は令和8年4月1日に双岩・川上・神山を統合し、現在の神山小学校に新設校（仮称：八幡浜南小学校）を設立予定。また、中学校は令和7年4月1日に松柏、愛宕、八代を統合し、現在の八代中学校に新設校（仮称：八幡浜中学校）を設立予定。

中学校は今年の6月から、小学校は8月から対象校の保護者説明会を各2回開催し、中学校は10月に地域説明会も開催した。保護者等からの意見としては、再編した場合の意見や要望がほとんどであるため、今回の再編計画については概ね理解を得られていると考えている。

説明会での質問や意見については、個人情報に関する部分を除き、市のホームページにてすべて公開しているが、主な意見としては資料に記載のとおり。

中学校の再編スケジュールについては、統合準備委員会を12月に設立、部会を設置し、学校再編に向けた具体的な協議を行い、3月末の調印式に向けて準備を進めていきたい。来年度には、統合準備委員会が閉校準備委員会に移行する形で、来年度末の閉校式に向けて生徒間の交流、また閉校に向けての準備を行い、令和7年度の4月1日に新設校としてスター

トすることになる。

小学校の再編のスケジュールについては、令和6年1月から各小学校区を対象とした地域説明会を開催したいと考えている。令和6年度には、統合準備委員会並びに部会を設置し、令和6年度末に調印式を行う予定である。令和7年度には、統合準備委員会を閉校準備委員会に移行し、令和7年度末に閉校、令和8年4月に新設校の八幡浜南小学校としてスタートしたいと考えている。

学校再編整備第二次実施計画が予定通り進んだ場合、令和8年度には小学校が10校、中学校が2校になる。中学校については、ひとまずこれで完了と考えているが、小学校10校の再編については、令和9年度中に学校再編整備第三次実施計画を策定し、統合再編を進める必要があると考えている。

【泉委員】

教育委員になった6年ぐらい前に比べると、遊具や施設などの修繕をよくしてもらっている。今後無くなる学校もあるが、無くなるまでの間は適切な管理をお願いしたい。

また、学校再編の問題について、以前は地域が寂れるとか、地域の公民館行事が無くなるといった反対の意見が多かったが、年月が経って、ある程度理解されてきたという気がする。

特に中学校の通学方法に関して、主な問題になっていると思う。中学生になると、自転車で通学する区域ができるが、雨が降ったときは特に女子は大変だと思う。市内バスがある地域は有効に活用してほしい。また、下校の時間は、利用しやすい時刻になるように、バス会社に対して、行政からも働きかけてもらったらと思う。

【市長】

雨の日のバス利用については、ぜひ利用してもらったらよいと思うが、今は高校にしても雨の日は保護者が送迎しているのがほとんどではないか。また、天気に関係なく、普段から車で送迎する保護者も以前より多くなっていると思う。

バスの運転手不足など、バスを取り巻く環境が非常に厳しいので、ぜひ利用していきたいと思う。今後、路線バスやスクールバスなど、どのような形の通学支援がよいのか、しっかりと協議していかなければならない。

【市長】

今のところは、統合に向けての話はスムーズにいらっていると考えてよいか。

【教育長】

はい。

【市長】

令和4年4月から令和5年3月にかけて生まれた子どもが128人であるが、その子どもたちが入学を迎えるときの学校別に割り振ったところ、一番多かったのが、喜須来小学校の28名、その次に神山小の20名、宮内小と白浜小が18名、松蔭小が2名だったと記憶している。このような状況の中、令和8年度に八幡浜南小（仮称）がスタートすることになるが、次の段階を見据えて、その他の小学校も考えていかなければならない状況になっていると思

う。

以前、松蔭小学校と江戸岡小学校を統合して、江戸岡小跡地に大きな保育所を作ってはどうかという案もあったが、今はそこまで大きい保育所は必要ないという状況になってきている。将来的には保内、八幡浜の中央と南にあったらいいのではないかとすることも考えており、それに合わせて、小中学校も考えていかなければならないと思っている。

【教育長】

今回、川上・双岩・神山を一緒にして、八幡浜南小（仮称）としているのは八幡浜南地域の学校を作るということになっている。次の段階の第三次実施計画の時には、北か中央か東か西になるのか分からないが、そのような話し合いに持っていく必要があると考えている。

令和9年度が最後の年であるので、1年間かけて第三次の再編計画を作る予定であるが、市長が言われた出生数を考えた場合、もう少し早めないといけないのではないかと、ということも議論になるかもしれない。統合も進めながら、今回の再編の次の段階の協議も行うことは、事務的には大変であるので、まずは八幡浜中学校、八幡浜南小学校の再編を進めながら、次の段階でと考えている。

【市長】

その際、特色のある学校は、今は高校でも存続させるということもある。市内でも日土小学校は国の重要文化財の指定がされているし、真穴小学校も海岸の地域の小学校で特色のある学校だと思うが、そのような点も協議する必要があるのではないかと。

【教育長】

今回の後期計画の中で、日土小は市長が言われた通りで残したが、説明会をする中で、やはり川上地区や双岩地区の方からは、日土小も同じような状況にあるのではないかと。伝統からいえば双岩小も150年の歴史がある、そんな話になってしまう。

現に、真穴小は現状維持が続いたとしても、日土小の児童数は激減している。重要文化財であるので、そこで学び、子供たちがいる学校でずっとあってほしいが、厳しい状況である。

このような中、校区を越えて子どもが集まらないかということで、昨年度、東広島市に視察に行ったが、元々の人口が多いので、市内でそのようなことができていた。八幡浜市の場合、市内で取り合っても仕方がないので、やはり外から呼ばないといけない。そうすると、住居などいろいろ難しい問題がある。

【成瀬委員】

令和9年度以降の再編で、協議にもう一つ入れてもらいたい点がある。江戸岡小と松蔭小の統合という案に加えて、白浜小と松蔭小の統合という案も協議の内容に入れていただけないかなという意見もある。

【教育長】

成瀬委員は、教育委員会の会議でも江戸岡小と松蔭小という捉え方や概念があるが、それを捨てて、例えば白浜小と松蔭小であればスムーズに進むのではないかと提案をされたことがある。

【成瀬委員】

市の施設が多いところを分断するのは、やはり市の力としても、減少していくのかなという気がするので、港を中心とした思い切った学校再編を行えば、若い人たちが住居を考えるとときなどにそういう要素になるのかなと思う。

【市長】

やはり若い人が住み着くということは、学校の要件はあると思うので、そのあたりも踏まえて協議していきたいと思う。

他にご意見がないようですので、学校再編整備第二次実施計画の進捗状況についての意見交換は以上とさせていただきます。

(2) 部活動の地域展開について

【事務局】説明

○教職員の関わり方について

- ・平日の16時以降、夏休み・冬休み及び学年末学期末の休みについては、月曜日から金曜日は平日として扱い、学校部活動として行う。
- ・休日の場合、希望するかしないかは教職員が選択し、希望する場合は、兼職兼業を申請して指導に従事してもらい、希望しない場合は、指導には携わらない。
- ・希望しない場合は、地域の協会や競技団体の方とも話をしながら、外部指導者が終日の部活動の指導にあたる。

○受け皿の仕組みについて

- ・八幡浜市スポーツ協会（現在27団体）の傘下に、中学校部活動グループ（仮称）を位置づけ、学校教育課から補助金（予算）を交付する仕組みを想定している。
- ・教職員が兼職兼業の申請を行う際に、公の団体に所属していた方が、より信頼性が高まるのではないかと考えている。
- ・部活動で参加料が必要になる場合については今後議論していく。

○部活動の地域展開に関するスケジュールについて

- ・11月27日に部活動の地域展開準備委員会を開催した。来年2月に検討委員会を立ち上げ、約1年をかけて協議を行い、令和7年の4月から休日における地域展開の段階的なスタートを予定している。

○合同部活動と拠点校部活動について

- ・令和5年度から拠点校方式を初めて採用し、現在、八代中学校と松柏中学校の女子テニス部で、八代中学校を拠点校化して、活動している。
- ・合同の部活動については、例えば野球部で、伊方中学校と松柏中学校、愛宕中学校と八代中学校が合同チームとなっている。

○令和6年度における部活動の方向性について

- ・地域展開の前に、令和7年4月の学校再編に向けて、現状の部活動をどうするかという問題解決を図るため、拠点校方式と合同部活動を実施する。
- ・資料にあるのは令和6年度の総体までの案になる。総体が終われば、新チームの部活動が維持できるのかできないのか、人数がどうかという点で変更になる。
- ・今年度末の中学校統合の調印が終われば、秋の新人戦は、統合後の中学校として参加することが可能になる。
- ・部活動の人数がそろっている学校については、現在の学校のままで、新人戦を戦いたいということも考えられるため、中学校体育連盟と連携を取りながら、部活動の方向性を検討していきたい。

【山下委員】

検討委員会の議論の中でいろいろな課題が見えてくると思うが、子供たちや部活動に携わる指導者、そして保護者の方がよかったと思えるような八幡浜ならではの地域展開を望みたい。

【泉委員】

先生方のアンケートをみると、指導に自信がない、負担になる、地域展開後は関わりたくないと答えた人が半分ぐらいおり、先生方がすごく不安を持っておられるようである。

新採の先生方やこれから入ってこられる先生が、かなり負担になるというような話を聞くと、採用倍率も減ってきている状況で、魅力のない職業になってしまうと、生徒の指導のレベルも下がってしまうのではという懸念がある。いろいろ課題もあると思うが、一歩ずつでも進めていかなければならない。

また、目先の勝負にこだわるあまり、行き過ぎた指導となり、いろいろと問題になっている事例もある。先生以外の指導者になった場合に、行き過ぎた指導になる恐れもあり、そのようなことがないように、先生や指導者の方の講習会を充実させていく必要がある。

【市長】

おっしゃる通りだと思う。昨年、市内においても行き過ぎた指導といった点で、2件続いたので、講習会等を含めて慎重にやっていきたいと考えている。

現在、中学校では全員が何らかの部活動に入らなければならないということになっているのか。

【教育長】

原則はそうになっている。

【市長】

今回、地域展開ということで、部活動のあり方が大きく変わってくる。文化部が吹奏楽部しかないという学校もあり、運動部に偏りすぎているのかなっていうようなところもある。

先日、八高陸上部女子が来てくれたが、市内の中学校には陸上部は一切ないという現状もあるので、そういったところも含めて、協議をしていけばよいかと思うが、教育長としては

どうお考えか。

【教育長】

令和4年8月に、教職員に対するアンケートをとったが、その際、例えば中学校の1年生や2年生、小学校の高学年、あるいは保護者に対しても、どのような部活動をやりたいですかなどのアンケートを取るべきだったかもしれない。ただ、もう子どもの数が数なので、子どもたちや保護者のニーズに応えようとすると、部活動の人数がさらに分散することになるため、せめて今ある部活動はやらせてあげたいと思っている。

【市長】

新居浜の別子中学にはバドミントン部があるが、部活動でバドミントンをやりたい生徒はそこに通学するという、そういう特色を生かした形のことをしているというニュースを見たので、そのようなことも一理あるのかなと思った。

【教育長】

多様性を求めると、なかなか難しい。部員がいない柔道も八西柔道会からは、1人でも希望があれば、教員が16時から指導していた部分を協会で行いますよと、という声もある。個人競技についてはそういうこともできるかと思うが、改めてアンケートをとって、部を増やすというのはちょっと難しい部分がある。

【佐々木委員】

先ほどの学校の再編を含めて、部活動もいろいろ絡んでくると思うが、すべてが難しいなと感じている。統廃合すれば、確かに地域が寂しくなるというのは分かるが、地域が寂しくなるかどうかというのは、行政に言うのではなくて、各地域が考えることだと思う。

個人的に感じているのは、すべてを行政に求めるのではなく、自分たちで何かできることはないのかというように、それぞれの地域が考える方向でできないものかなと思う。

人口減少がすべての根本だと思うが、その地域がよその地域よりも魅力があり続けられれば、若い人や出て行った人も帰ってくるのではないかな。生活環境であったり、収入の面は大きいと思う。少なくとも、私が今感じている部分では、みかんに関してはすごくいいと思っているが、すごく不安定であるので、その辺を安定させる努力をすればよい。決して、出て行った人たちが地元の魅力を感じてないわけではないと思う。

八幡浜はすごくいいところだと思う。そういうところのアピールと、市と地元がみかんの価格をいかに安定させるかを考えるのが、第一ではないかなと感じている。そうすれば、今以上に人が減ることもないと思う。

それともう一つは、八幡浜市を中心にしたその周辺の地域も昔に戻るのもう不可能だが、多少なりとも元気になってほしいなと思う。昔は、米がありタバコがあったおかげで、みかんのアルバイトに頼らなくても、農閑期の人口の移動で、収穫の手間も何とかなったが、今はもうタバコが駄目、稲が駄目である。八幡浜市を中心にしたその周辺の地域の頑張りがあったから、みかんも人の移動で成り立っていたし、商売する方もその周辺相手の商売で成り立っていた部分もあるのではないかなと思う。

行政におんぶにだっこという考え方よりも、もっと地域の一人一人はどうすればいいのか

を考える方向にいけないものかと感じている。

【教育長】

市長が舌田地区の市長を囲む会に行かれた際に、地元がすごい元気だったと言われたが、今年度の八幡市との交流事業で、舌田地区で地引き網体験を行い、地元は大漁旗で迎えてくれてすごいおもてなしをしてくれた。舌田地区は、10年前ぐらいに小学校が無くなっているが、子どもたちに対する関わり方や、勢いや元気があるというか、学校が無くなって寂しいけども地域はまだ生きてますよという感じがした。そういう部分はすごく大事だなと、佐々木委員の話聞いて思った。

【市長】

昔は小学校区単位でいろいろなことをやっていたが、これからは公民館単位で物事を考えていかなければならないのかなと思う。

47都道府県の中で、東京だけ人口が増えているというようなこともあるが、実は海外から東京に入ってきている人が増えているだけで、東京も日本人自体は減っている。日本人だけで考えたら、日本全国減っているわけであって、その人口減少社会の中で、地域をどうしていくか、その中にこの学校統廃合や部活動の地域展開の問題も入ってくるのかなと思う。

人口減少の中で、元気な地域をどう維持していくか、今ほど佐々木委員や教育長が言われたようなことを展開していく、それが持続可能な地域になってくるのかなと思っている。

舌田地区公民館がなぜ元気なのか言うと、やはりその中心になる人が若返っているというところにあると思う。地区の区長さんも40代、公民館長も40代から30代ぐらいになっており、地域の行事や敬老会をする時にも、その地区の区長さんのお父さんやお母さんを引っ張ってくるということで、小さい地区だが50人ぐらいの出席者が出てきてお祝いをする。このように、地区の中心となる人の世代交代などが上手く進んでいるところがやっぱり地域的にも元気があるのかなというふう感じた。

やはり重要なところは、家族であって地域であって、子供が生まれるようなところになってくると思うので、そういうところを市としてもいろいろな側面から考えていけたらと思っている。

【成瀬委員】

部活動が地域展開になり、経済的な個人負担が発生するようになった場合、市から補助金などを検討してもらいたいと思う。

【市長】

地域展開の際、部活動の参加費については、どのような形になるのか。

【教育長】

土日の移行に関しては、子どもや家庭からは自己負担がないようにしていきたいと考えている。

【市長】

現在、学校での部活動に対しては、保護者の負担はどれぐらいあるのか。

【教育長】

学校にもよるが、後援会費を集めている。一口いくらとか全戸一律とか、やり方は様々だが、集まった金額をもとにして、輪番制でユニフォームを作ったり、各部の人数などに応じて部費を配分している。

【泉委員】

私の子供は野球部だったが、それとは別に野球部だけで集めていた。もちろんユニフォーム代などは学校からお金が出て、各部が順番で更新していた。

【教育長】

保護者会で集めたりしている部もある。

【市長】

他にご意見がないようなので、部活動の地域展開についての意見交換は以上とさせていただきます。

(3) 松蔭地区公民館建設事業の概要について

【事務局】説明

1 経緯

松蔭地区公民館は昭和40年に建設されてから55年ほどが経過、老朽化が著しいことから、総合福祉文化センター跡地への建て替えを行うこととしている。現在は総合福祉文化センターの解体工事及び新たな松蔭地区公民館の実設計を進めている段階

当初は公民館として標準的なもので建設をする予定であったが、国の補助金を活用して脱炭素社会に向けた省エネ対策に配慮した施設の建設を目指している。全ての補助要件を満たした設計基準として、省エネ型の換気設備、再生可能エネルギー設備、こちら太陽光発電等エネルギー管理が可能な計装システムの導入が必要であり、それらを取り入れた建物を建設予定。

総合福祉文化センターの解体工事については、令和5年2月3日から令和6年2月28日、実設計については、令和5年7月6日から令和6年3月末日の予定

2 概要

構造：鉄筋コンクリート2階建（再生可能エネルギーを導入した建物）

面積：建築面積が557.65㎡、延床面積1115.30㎡

各階：1階は事務所、会議室二つ、多目的室、図書実習室、調理実習室、倉庫、屋外倉庫を配置

2階はホール、大広間、和室

別棟として、陶芸室と倉庫を配置し、別棟の延べ床面積は94.16㎡

3 工期

令和6年10月初旬から令和7年9月末の1年間を予定

4 建設費

約7億5千万円（概算）

【泉委員】

古い福祉文化センターの駐車場が非常に狭かった。会議があればいつも一杯で、今までは新川駐車場に置いたりしていた。図面を見ると、20台ちょっとの駐車可能台数であるが、そのあたりは適当な台数になっているのか。

【生涯学習課長】

今までは中央公民館、総合福祉文化センターといった複合施設ということで、人数も集まっていたため、駐車可能台数が少ないというご意見も多々あった。今回は、あくまで地区公民館として建てるものであり、限られた敷地である程度の台数を確保したつもりである。設計についても地元とも調整しながら話を進めており、現在は21台分ということになっているが、これだけあればどうにか対応ができるのではないかと考えている。

【山下委員】

どの世代の人も気軽に使える施設であってほしいのと、子供たちが放課後とかに寄れる居場所的な役割も持ってほしいと思う。

【生涯学習課長】

まず先ほどの補足になるが、中央公民館を解体しており、そちらの機能としては現在コミカンに移っている。駐車場もかなり停められるので、今現在は支障ないものと考えている。

施設の利用方法については、地区公民館としても子供を対象にした事業や子供が集えるような教室といったものも考えており、その使用についてもできる限り門戸を広げて、利用を進めたいという意見は伺っている。

【教育長】

元々、松蔭地区は公民館と学校との関係が深いので、例えばふるさと先生として専門的な方が行かれたりする交流があるので、その辺はうまく使われるのではないかと考えている。

【成瀬委員】

旧松蔭地区公民館は3階にホールがあったので、高齢者の方から足が駄目なのでもう活動に参加できなくなったというお話がたくさんあったが、それをスロープのみで対応する

形か。

【生涯学習課長】

現在のところは、スロープを設置してそれに対応する予定である。

【佐々木委員】

再生可能エネルギーを導入した建物整備になっているが、主にはソーラーパネルということではよろしいか。その際、ソーラーパネルの原産国云々というものが、考慮されることはあるのか。私の記憶が間違っていたら申し訳ないが、アメリカは今でも中国産のソーラーパネルは輸入禁止措置とか取っていたのではないかと思う。入札したらおそらく中国製のパネルが性能比で安いのではないかと思うが、その時に何らかの問題が生じたりすることはないか。

【生涯学習課長】

現在、実施設計中であり、業者が仕様について検討しているところである。その規格や内容によって、またどこ国のものを使うとか、どれぐらいの規模になるのか、それによって変わってくる。また、世界情勢によっても変わってくるかと思われるので、いただいたご意見をもとに詰めていきたいと思う。

【泉委員】

蓄電池も備えるようになるのか。これだけの規模の建物に対応すると蓄電池となると相当高いと思われるが、この中に含まれているのか。

【生涯学習課長】

建設費の概算金額は7億5千万円であるが、そのうちZEB（ゼブ）に関連した設備投資、設備の金額としては、約1億2千万円程度を見込んでいる。その中には、太陽光パネル、エネルギー管理が可能な計装システム、蓄電池などを組み入れた建物にすることを想定している。

【市長】

松蔭地区での市長を囲む会の際、津波時の避難場所の話が出たため、新しくできる松蔭地区公民館に逃げてくださいと言った。屋上であれば9メートルぐらいはあるだろうが、太陽光パネルがあるので屋上には上がれないのではないか。

【生涯学習課長】

調べて後日お答えする。

※会議後回答

建設予定地は海拔3.6mで土砂災害での一次避難所として考えている。八幡浜市津波ハザードマップでは、5m～10mの津波浸水予定区域となっていることから、地震・津波発生時の一次避難所にはできない。

【市長】

他にないようなので、松蔭地区公民館建設事業の概要についての意見交換は以上とさせていただきます。

その他意見がなければ、以上で本日の協議は終了させていただきます。

今後とも教育行政の効果的な推進を図るため、教育委員会との連携を密にして考えていきたいと思っているので、よろしく願いしたい。

閉会